

TSY MANINONA

JOURNAL SUR MADAGASCAR



木川 莉江 KIGAWA RIE

JICA青年海外協力隊として
マダガスカルのアンブイマナンブラで活動中
大塚製薬株式会社より現職参加
(2021-3次隊/コミュニティ開発)

農村住民の生活改善

今月3月から始めた生活改善チームで各地域を訪問する活動。現在、既に半数の5か所の地域への訪問が終わり、6か所目の地域へ訪問を開始しました。上手くいく地域と上手くいかない地域が半々という印象で、この活動の効果を高めるにはどのような方法が良いのか、チームメンバーと案を出し合っています。

これまでは、地域長へ活動の説明を行い住民を集めてもらうことを依頼、同時に町にポスターを貼り、当日チームメンバーと訪問し勉強会を実施、という流れでした。上手くいった地域では、地域長の理解もあり広報が行き届いており、初回から多くの人が集まり、活発な議論や勉強もなされて生活改善活動の効果も少しずつ見ることができました。

例えば、月々の生活費が足りないため節約を目指し、泥炭を作り使い続けた家庭では、現在 毎月約28000Ar (約884円) の節約効果。ある女性グループでは、養鶏を始める資金調達のためキャッサバの葉のケーキを販売し17640Ar (約557円) の売り上げ。健康維持を目標に料理教室を続けている女性グループでは、「色々な料理が出来るようになって家族に喜ばれているし、家庭や教会以外のグループで初めて悩みを打ち明ける場が嬉しい」等の声も聞こえてきました。

しかし上手くいかなかった地域では、住民が集まらずに1ヶ月が終わってしまいました。原因としては、地域長に対する説明が不十分であったことや住民が多忙な時期であったことが考えられます。しかし、どの農民も時間をかけて話すと「生活改善を取り入れたい」という人がほとんどなので、ニーズはあるにも関わらず、上手く広められていないことに、とても悔しく感じています。

チームメンバーで話し合った結果、今後は地域長が選抜した、「やる気のある1~5家庭」もしくは「既存の女性グループ」のみにしっかりと情報提供を行い、まずはモデルケースを作り、その人たちと共に近隣住民に少しずつ広めていくという方法に変更することになりました。勿論一筋縄ではいかず、また新たな課題が見えてくるとはありますが、ちょっとでも効果がある方法を模索していきます。



66

Sambatra

「しあわせ」という意味
生活改善活動を進めていくうえで
その人にとっての「幸せ」とは何か
それぞれが把握したうえで目標を立てることが
大切かなと感じています
が難しいです、



EPP(小学校)にて日本語のテスト



JICA事務所での中間報告



女性グループで作った肉まん

RAPPORT INTERMÉDIAIRE SUR LES ACTIVITÉS BÉNÉVOLES

ボランティア活動の中間報告

配属先とJICA事務所での中間報告をそれぞれ行いました。出来る限り沢山アドバイスを頂きたく、抱えている悩みや現状をそのままお伝えしました。配属先の農業省からは具体的なアドバイスをいただくことができ、より活動にも協力してもらえそうです。この勢いで更に活動を進めていきたいです。

またJICA事務所での中間報告では、他の同期の発表も聞き、活動に取り入れたいところや気づきもあり、これまでの1年間を振り返る良い機会になりました。

今月は市役所職員の子供の割礼のお祝いがありました。1年たった今でも、日本にはない慣わしを発見し驚きます。今後もマダガスカルならではの行事・文化・自然を存分に楽しみつつ頑張っていきます。

